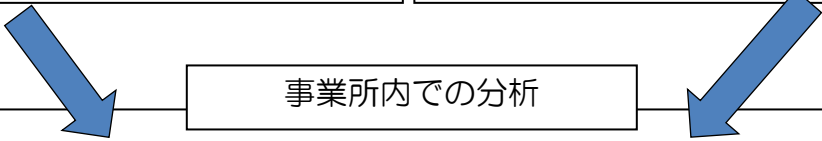


職員による自己評価

- A 環境・体制整備
 - ・活動を分けたり、外出をしたりして対応している
 - ・物の配置など見方を工夫している。
- B 業務改善
 - ・研修会などコロナの影響であまり行えていない
- C 適切な支援の提供
 - ・こどもの適応行動の状況を図るためのアセスメントツールが確立していない
- D 関係機関や保護者との連携
 - ・医療的ケアは行っていない
 - ・コロナ渦で交流は行っていない
- D 保護者への説明責任・信頼関係
 - ・交流会（運動会・クリスマス会・シティウォーク）等を企画しているが、今年もコロナ渦で中止になった
- E 非常対応
 - ・事業所として年2回の避難訓練を実施している
 - ・やむを得ない身体拘束など保護者とスタッフ間での共通理解を再度確認する。

保護者による評価

- A 環境面
 - ・気を付けて見たことがないのでよく分からない。
- B 児童への支援内容
 - ・子どもの事をよく見てくれてアドバイスもしてくれる。
 - ・子供たちからのリクエストを聞いて活動してくれる。子供が喜んでいる。
 - ・公共交通機関も利用したり、色々な体験をさせていただいてありがたい。
 - ・児童館などの交流は必要ないと思う。
- C 保護者への説明等
 - ・面談以外にも助言いただくと助かる。
 - ・コロナ期間だった為、仕方ないと思う
 - ・苦情はない。
- D 非常の対応
- E 満足度
 - ・とても楽しみにしている。
 - ・スタッフやお友達に恵まれている。親子で大満足
 - ・先生方の丁寧なご指導のおかげで大きくなっても通いたいという本人の強い意志で通所させて頂いている。感謝の気持ちでいっぱい。



事業所内での分析

- 【共通点】**
 - ・児童が楽しみにして事業所を利用している
 - ・コロナ渦により、保護者会や季節のイベントなどが行えない
 - ・室内活動時のスペースはコロナ渦では十分とは言えないが、外出などで工夫しながら対策している
- 【相違点】**
 - ・こどもの適応行動の状況を測るためのアセスメントツールが確立していない。

分析・検討してみても…

事業所の強み

ウォーキングをメインに体を動かし規則正しい生活を送れるようご家族と密に連絡を取り支援している

児童たちの意見も交えながら活動に取り組んでいる

児童の支援をしていくうえで、ご家族や関係機関との連携を図って支援を進めている

プログラムに講師の時間を取り、児童の多様性の強化を図っている

事業所の改善点

障害福祉サービス事業所との連携を深めていく

スタッフ（男性）数を充実する

事業所の改善への取り組み

- ・児童が落ち着かない時などは個別に個室で対応する、音などが気になる場合にはウォーキングに出るなどの対応をしていく
- ・今後も活動が固定化されないようスタッフで話し合いをしていく
- ・研修などで適応行動の状況を図れるアセスメントツールがあれば積極的に取り入れていく

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

ご意見欄にご家庭から多くのご意見をいただきありがとうございました。

頂いたご意見をもとに障害福祉サービス事業所などとの連携を深めるなどの事業所としての改善点と児童たちが活動を楽しみにしているという強みを再認識することができました。これからも安心して通所して頂ける施設を目指してスタッフ間での情報共有や保護者との連携を深めていきたいと思っております。